



平成30年台風21号の爪痕

平成30年8月27日にマーシャル諸島近海で発生した台風21号は平成30年9月4日に非常に強い勢力のまま日本に上陸し、全国で死者13人、負傷者900人以上を出す災害となりました。

大鹿村では沢井雨量観測所で累計雨量188mm、時間最大雨量36mmの降雨があり、村内各所で川の氾濫、道路の冠水、土砂の流出等の大きな被害が発生しました。



被害の様子「塩川 高橋上流」

災害発生前



災害発生前、道路から河床までの高さは5m程度ありました

災害発生直後



見る見るうちに水位が高くなり、道路への冠水が始まりました

災害発生後



冠水、堆砂が進み、道路と川の区別がつかなくなりました

現在(9/28)の様子



水位は下がりましたが、舗装、ガードレールが壊れ、道路の原形をとどめていません

「塩川 河原島橋～高橋」



道路の上を大量の水が流れたことにより、舗装がめくれ、ブロック積擁壁が崩落しました



増水した河川により道路が流出し、道路があった場所を川が流れており、現在もこのままです

災害後、早期の復旧に向けて国土交通省、飯田建設事務所、大鹿村が協力し、復旧作業を進めています。

「和合沢 若宮橋、和合2号橋」



若宮橋

上流に架かっていた和合2号橋が流出し、若宮橋にぶつかり、橋が傾いてしまいました。橋が流れた時は地鳴りのような音がしたそうです



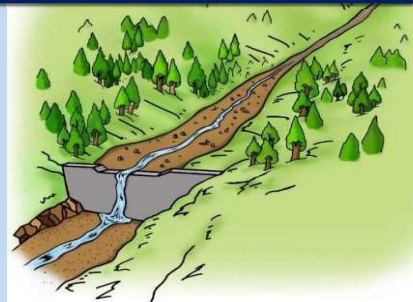
和合2号橋

流出した和合2号橋は若宮橋の下流、青木川との合流地点まで流されています

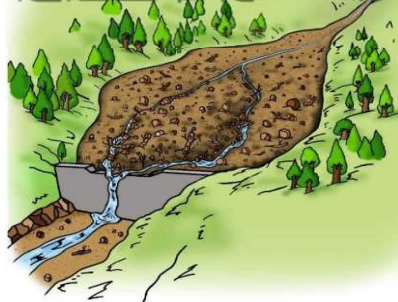
今回の災害を体験し、自然の力の偉大さ、恐ろしさを再認識しました。砂防事業に携わるものとして、災害から地域の安全を確保できるよう、今後も工事を進めていきたいと思ひます。

砂防堰堤の働き

不透過型堰堤が土砂の流れを調節する働き



①不透過型砂防堰堤は、土砂で一杯になっても、効果がなくなるわけではありません。堰堤の上流側では、土砂がたまって川の勾配がゆるくなり、川幅も広がるため、水が流れるスピードも遅くなります。



②大雨と一緒に大量の土砂が流れてくると、川の勾配がゆるい堰堤の上流側で水のスピードが遅くなり、既にたまっていた土砂の上にさらに大きく一部の土砂が積もってたまります。



③上にたまった土砂はその後、雨が降るたびに水の力で削られ、少しずつ下流に流れ出ていきます。(その後、大雨が降ると再び②のように大きく積もってたまります。)